

福祉だより ぬくもり



第70号

平成25年8月31日

西宮市社会福祉協議会
山口支部北六甲台分区
分区長 生田 収



初めは踊りより、夜店に行列ができていました。日暮れ提灯の灯りがきれいに灯る頃になると、多くの人が踊られ、私は幻想的な風景に酔いしれていました。すっかりこの地域にとっても故郷の行事になりました。

第二十八回北六甲台盆踊り大会

今年も賑わった敬老席

八月十七日(土)、自治会主催の盆踊り大会が、今年も役員や各団体の関係者の多くのボランティアの方々の協力のもと開催されました。

五時半から、昔ながらの手作りおもちゃ(ストロー笛やブンブン独楽、紙飛行機やふくろう)のプレゼントがあり、お父さんお母さんと一緒に小さな子どもさんが、興味深げに貰って行きました。

元氣な松本自治会長の開会挨拶の後、ミュージカル劇団「希望」による踊りが披露され、その後、盆踊りが始まりました。

市民と市長の対話集会

高齢化社会の行政の役割は？

日高 昭夫

7月24日午後4時から「市民と市長の対話集会」が山口センター1階会議室で開催された。小学校区内の自治会、地域団体、小中学校PTAなどの代表者12名が出席した。社協北六甲台分区からは分区長が所用で出席できないため、私が代理で出席した。

市長室長の進行で始まった対話集会は、冒頭、河野市長から「市のプロフィールと歩み」「第4次総合計画」「今後の人口予測」などについての簡潔な報告があった。

その後、地域の出席者から順次、所属組織の現状や課題、市への要望などの意見が表明された。私からは、超高齢社会となった北六甲台の現状を述べ、社協分区として安心キット導入に着手したこと、今後更に高齢者の見守りや困り事支援が必要なことにふれた。その上で高齢化取り組みでの自助(個人)、共助(地域)、公助(行政)のそれぞれの役割を整理し、それぞれが連携して取り組めるよう、市としての枠組みを提示してもらいたいと訴えた。



約1時間をかけて各団体代表が意見表明した。メモを取りながら耳を傾けていた市長から、その後にそれぞれについてのコメントが述べられた。事前の打合せ抜きの意見についてのコメントである。踏み込んだ回答は求むべくもない。私の意見についても安心キット導入着手への謝辞はあったが、要望についての回答らしきものには触れられなかった。とはいえ出席者への真摯な姿勢が随所にみられ、その誠実な人柄が伝わった。

今回の対話集会の特筆事項は、山口地域での新旧両地区の意識の違いを直接市の責任者に伝えたという点ではなかっただろうか。従来の対話集会は中学校区を対象に山口地区全体の市民代表との対話の場だった。それだけに山口地区全体の課題がテーマになっていたようだ。今回は小学校区対象で、大きく分ければ旧地区と新地区それぞれを対象とした場になった。

山口は新旧地区が共存する町である。両地区には、歴史や街の成り立ちの違いからくる埋めようのない溝がある。何人かの代表からはそうした点の言及があった。もちろん根底には、そうした溝を超えて何とか山口全体の活性化や発展を求めたいという意向がある。新旧両地区共通の山口の町づくりのビジョンが必要ではないかと思う。今回の対話集会が、そうした流れに向けてのきっかけづくりになることを期待したい。

お盆休み中ということもあり、里帰りされくみかけました。社協のお手伝いの一つで未就学のお子さんにお菓子を配りましたが、まだ残っていましたので、三年生までのお子さんにも配りました。その時、子どもさんに渡そうとすると、泣きながら「四年生だからいらない・・」と言われたそうです。プライドを持ち健気な子どもさんなんだろうなと思うといとしく感じました。

今年は、猛暑と言われ北六甲台も日中は暑かったのですが、盆踊りが始まるころから風が吹き、例年より凌ぎやすかったように思います。

社協の敬老席は、今年も大入り満員で椅子が足りない状態でした。お茶接待をさせて頂きましたが、みなさんお元気で、踊りに行かれたり、休憩中は話に花が咲いたり楽しそうでした。懐かしいお顔を拝見することでもでき、私の方がパワーを頂いたようなひと時でした。

自治会の抽選会の後、踊りは三曲で終りましたが、多くの方が盆踊りを惜しむように、小さい子どもさんと一緒に踊られていたのが、印象的でした。

心地よい疲労感と、また来年も開催されることを願いつつ、家路に着きました。

寄稿

若者の選挙離れに一言

こんな日本に誰がした！

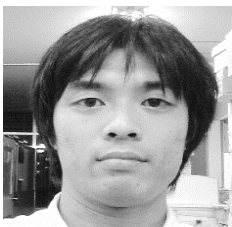
北六甲台五丁目

片山 忠

一昔前に、「狭い日本、そんなに急いでどこへ行く」という言葉が流行ったことがある。敗戦で焦土化した日本をがむしゃらに働き、復興させてホッと一息つく間もなく、車社会となり、人々にも多少は心のゆとりもできて「そんなに慌てなさんな」的な言葉でもあった。但し、当時は国民の政治への参加意識は高く、将来への夢や希望は共有していたように思う。

それが高度成長を機に、かつてのこまやかさをすっかり捨ててしまい、バブル時代や失われた二十年を経て、自信がなくなり、デリカシーの乏しい「大味な日本人」ばかりになった。その証拠に、現状では短絡思考の持ち主が溢れ、自分のところさえよければ良い、今が満たされれば充分、せいぜい我が子、我が孫の先行きまでが想像の限界。それが「原発列島」を生み、「借金大国」を作り出した。それでいてお上の無能ぶりを嘆き、政治に対する不満を言う。あるいは、誰かがどうにかするだろうと知らんぷりを決め込み、投票にすら行かない。今回の参院選も事前調査では

行く」を合せれば八十%程度の高率だったが、案の定、実際は五十%台と低い。とりわけ若者に期待したが空振りに終わった。昔も二十代前半の若者の投票率は全体の平均より十五%は低かった。それでも歳をとって三十代前半になれば、全体の投票率に追いついていたが、一九九〇頃を境に変わった。二十代前半の投票率は更に低下し、なおかつ全体に追いつくのに十年ではなく二十年近くかかるようになった。このことは取りも直さず、学校現場でリアルな政治問題を教えるだけのゆとりと知見のなさ、学生を「政治オンチ」に追い込んでいくように思えてならない。加えてマスコミも「今の政治家は政策より政局ばかりだ」などと過度の政治批判に傾き、いわば大人がこぞって政治を遠くにおいてしかも汚いもののように仕立ててみせてきたのではあるまいか。だとすれば、二十歳になってから、「さあ選挙に行きたまえ」と簡単に言う大人は随分おかしい。若者が選挙を大切に思えないような風潮は多分大人の責任であろう。



安心キットを



西宮市社会福祉協議会
北六甲台分区担当

高田 聖矢

北六甲台に住む皆さまにお願いがあります。

今年度、社協北六甲台分区では「高齢者の見守りの推進」を重点的に行っており、そのきっかけとして、あんしんキットを配布することになりました。そこで、8月7日付で配布された社協北六甲台分区広報紙「ぬくもり」特別号で紹介している「あんしんキット」を家族やご近所に住む対象者の方に「ぬくもり見ましたか」「あんしんキットを申込みましたか」「申込書を出してきましたようか。」など、少しおせっかいな人になつてほしいと思います。

「あんしんキット」の配布対象者は、「65歳以上の方」「障がい

安心キットの利用申込みを！

社協北六甲台分区では、北六甲台在住者を対象に、現在安心キットの利用申込みを受付中です。※上山口東は別途募集

65歳以上または、障がい等の事情で希望される方は、ぜひ9月10日迄にコミセン玄関の社協BOXに申込書を投函下さい。申込書は8月中旬に北六甲台全戸に配布済の「ぬくもり特別号」に掲載しています。

申込まれた方には、社協役員が12月中にご自宅に訪問し、無償で説明配布します。

社協会員会費報告

ご協力ありがとうございました

個人	485口	242,500 円
企業	16口	80,000 円
合計		322,500 円

8月20日現在

そんな方でも、ご近所や家族から誘われたら、申し込んでみようかなという気持ちになるかも知れません。人は人と関わって動く・変わることはありません。また、声をかけたことで、また、かけられたことがきっかけで何か新しいことが起こるかもしれません。